

The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

2023年野球殿堂入り通知式

館長 庄司正信

1月13日（金）野球殿堂博物館を臨時休館にし、午後2時00分より殿堂ホールにおいて2023年野球殿堂入り通知式を開催いたしました。今年も新型コロナウイルス感染予防のため、残念ながら関係者のみの出席で、メディア、維持会員の皆様にはYouTubeのオンライン配信とさせていただきました。

競技者表彰のプレーヤー表彰は、ヤクルト、巨人、DeNAで活躍されたアレックス・ラミレスさん、エキスパート表彰は、阪神で活躍されたランディ・バースさんが選出され、特別表彰からは、作曲家の故・古関裕而さんが選出されました。

昨年12月に当館の理事長に就任した榊原定征理事長から本年の野球殿堂入りの発表がなされた後、競技者表彰委員会澤田啓太郎代表幹事及び特別表彰委員会井原敦義長の代理として私（庄司）より、それぞれの委員会での選考過程について報告がありました。

続いて、殿堂入り通知書の授与、顕彰者の挨拶が行われました。

最初にラミレスさんから、家族への感謝に続き、「私が殿堂入りにふさわしいと考えてくれたすべての方に感謝します」と謝辞が述べられた後、歴代の通訳の方にも感謝の言葉を贈られました。次にバースさんはビデオメッセージで、「私が今ここにいるのは安藤統男監督、本多達也通訳のおかげです。阪神タイガースは素晴らしいチームでした」と感謝の言葉を語られました。そして1985年に阪神を日本一に導いた吉田監督についての思い出も話して下されました。

古関さんのご長男の古関正裕さんからは、お父様がスポーツ音痴だったとのお話に加え、「もう亡くなっていますが、野球殿堂入りと聞いて死ぬほど驚いているのではないのでしょうか」とユーモラスにお父様に代わり感想を述べられました。

引き続き、ゲストスピーチに移りました。ラミレスさんには巨人軍監督の原辰徳さん（2018年殿堂入り）がビデオメッセージで出演し、お祝いの言葉に続けて、「敵としてはいやなバッターだったが、味方としては頼もしい選手でした」と監督として感じたラミレスさんの活躍に対する思いを話されました。

バースさんには監督だった吉田義男さん（1992年殿堂入り）より、「ランディがいなかったら、1985年の日本一はできなかった」と賞賛の言葉と監督とバースさん本人しか知らない起用法についての話も披露していただきました。

古関さんには日本高等学校野球連盟顧問の田名部和裕さんより、全国高等学校野球選手権大会歌「栄冠は君に輝く」が生まれる際のお話と、「我々高校野球関係者は古関さんの功績を、今後も大会と共に末永く継承したいと思います」と決意が語られました。

最後に殿堂入りされた方々、ゲストスピーカー、理事長を交えた記念撮影を行いました。今回は外国出身の方、音楽界の方の野球殿堂入りということで、新しい時代の野球殿堂を象徴する通知式となりました。顕彰者の皆様、野球殿堂入りおめでとうございます。



左から 吉田義男氏、アレックス・ラミレス氏、榊原定征理事長、古関正裕氏、田名部和裕氏

2023年野球殿堂入り

競技者表彰委員会

第63回競技者表彰委員会はプレーヤー表彰で、東京ヤクルトスワローズ、読売ジャイアンツ、横浜DeNAベイスターズで活躍したアレックス・ラミレス氏を選出した。

プレーヤー表彰の候補者は、現役引退から5年経過かつ20年以内の有資格者の中から競技者表彰委員会幹事会が選ぶことになっている。今回は24名が選ばれ、15年以上の野球報道経験を持つ委員が最大7人連記で投票を行った。委員総数は363、投票委員数は356、有効投票数は355だった。

当選には有効投票数の75%以上の得票が必要で、今回は267票。ラミレス氏は得票率81.7%の290票を獲得し、資格を得てから5年目に殿堂入りした。プレーヤー表彰の野手では2019年の立浪和義氏以来、4年ぶりだった。

ラミレス氏は3球団13シーズンにわたり中心選手として活躍し、海外出身選手として初の通算2000安打を達成。日本のタレントのパフォーマンスをまねてファンを楽しませるなど、明るい性格で多くの人たちに愛されている。引退後の2016年からはDeNAで5年間、監督も務めた。



ラミレス氏

ラミレス氏 通算成績
NPB実働13年 1744試合 6708打数 2017安打
1272打点 380本塁打 打率.301

エキスパート表彰では阪神タイガースで活躍したランディ・バース氏を選ばれた。

投票権を持つ委員は、すでに殿堂入りされている方と競技者表彰委員会の幹事及び野球報道経験30年以上の方々。今回の委員総数は158、投票委員数155、有効投票数は154だった。幹事会が選んだ19名の候補者を対象に、最大6人連記で投票を行った。当選には75%以上の得票が必要で、今回は116票。バース氏は121票を獲得し、殿堂入りを果たした。同表彰での殿堂入りは3年ぶりだった。

1985年阪神日本一の原動力となり、2度の3冠王、シーズン

打率日本記録（3割8分9厘）保持者のバース氏だが、プレーヤー表彰での殿堂入りは果たせなかった。2013年にエキスパート表彰の候補に入るも当選まで11年。日本での実働年数が6年と比較的短く、委員の間でも評価が分かれていたのが要因の1つだった。

バース、掛布、岡田の伝説のバックスクリーン3連発、カーネル・サンダースを思わせるひげと体格でも親しまれ、プレーから40年近くたった今でも存在感は別格。阪神監督に復帰した岡田彰布氏が「もっと早くなくても良かった」と話したのも、もともとだろう。



バース氏

バース氏 通算成績
NPB実働6年 614試合 2208打数 743安打
486打点 202本塁打 打率.337

過去にアメリカでプレーしたのち日本で活躍して殿堂入りした方としては、与那嶺要氏がいる（1994年殿堂入り）。与那嶺氏はマイナーリーグ出身。大リーグを経てプロ野球でプレーした選手の殿堂入りは、ラミレス氏とバース氏が初めてだ。ふたりの同時殿堂入りは、歴史的な出来事でもあった。

来年度の競技者表彰を見渡すと、プレーヤー表彰では、今回得票数2位（253票）の谷繁元信氏、同3位（245票）の黒田博樹氏が次の殿堂入りに最も近いところにいる。また、新たに有資格者となる2018年引退組には、元中日の岩瀬仁紀氏、元西武の松井稼頭央氏、元広島の新井貴浩氏らがいる。

エキスパート表彰では、バース氏のかつての同僚・掛布雅之氏が最も近いところにいる。今回は得票数2位（102票）、当選に14票足らなかった。3位（71票）の長池徳士氏にもチャンスはある。なお、今回初めて候補者となった安仁屋宗八氏が得票数7位（40票）に食い込んだ。沖縄出身のパイオニアのひとりとして、沖縄返還50年の節目に再評価されたことも記しておく。

競技者表彰委員会代表幹事 澤田 啓太郎

写真提供：ベースボール・マガジン社

2023年野球殿堂入り

特別表彰委員会

第62回特別表彰委員会は、1月7日に東京ドームホテルで開催され、本年の殿堂入りに作曲家の古関裕而氏を選出した。

今年は、昨年の10名の候補者から野球殿堂入りした松前重義氏を除く9名の候補者を5名に絞り込み、新たに5名の候補者を加えて選考が行われた。当日の委員会では委員13名が出席で欠席は1名。表彰委員会規程第25条により委員半数以上の出席から委員会は適正に成立した。

選考の議論では、まず候補者全員の履歴・球歴が改めて紹介され、委員がそれぞれに意見を述べた後に投票が行われた。その結果、古関氏が殿堂入りに必要な出席委員の75%以上の投票（10票）を獲得した。同規程第21条（表彰対象者の資格）にある「野球に関する文芸・学術・美術・音楽等の著作物を有する者」であり、同規程24条「野球文化の発展、魅力の発信に顕著な功績をあげた」業績が讃えられた。

古関氏は1909年8月11日、福島市に生まれる。二十歳の時に海外作曲コンクールで入選を果たした。1930年に日本蓄音器商会（現 日本コロムビア）に作曲家として入社して国民的作曲家としての道を歩まれた。数々の名曲を発表され、1989年に80歳でご逝去されるまでに作曲した作品の総数は5,000曲にも及び、野球に関わりが深い作品も多く残された。今でもグラウンドで、そしてスタンドで歌い継がれている。



古関裕而氏

最初の野球関連作品が、1931年春の六大学リーグ戦でお披露目された早稲田大学応援歌「紺碧の空」である。慶応大学応援歌「若き血」に対抗して作られた新しい応援歌は、当時は「第6応援歌」だったが、その後に「第1応援歌」となり、現在に歌い継がれている。そして「紺碧の空」をきっかけに、古関氏はスポーツ音楽にも精力的に取り組むようになった。同年には、大リーグ選抜チームを招聘して開催された日米対抗野球大会で「日米野球行進曲」を作曲した。続いて1934年には都市対抗野球大会の大会歌「都市対抗野球行進曲」で大会を盛り上げた。

プロ野球の興業が始まった1936年には大阪野球倶楽部（大阪タイガース、現在の阪神タイガース）のために「大阪タイガースの歌」を作曲した。冒頭の歌詞から「六甲おろし」の愛称で呼ばれる楽曲は、85年を過ぎた今でも阪神ファンにとどまらず、多くのプロ野球ファンに親しまれている。

戦後の学生野球、社会人野球、プロ野球の復活に合わせて、古関氏の野球との関わりは続いた。1946年に今度は慶応大学応援団から「紺碧の空」に対抗するための新しい応援歌を依頼され、「我ぞ覇者」を作曲した。さらに1948年には学制改革を記念して全国高等学校野球選手権大会歌「栄冠は君に輝く」を制作。この曲は同年の第30回大会から現在まで毎年の開会式で歌われている。いつの時代でも変わらずに高校球児に希望と勇気を与える大会の象徴となっている。

プロ野球との関わりも続いた。1950年には、中日ドラゴンズの球団歌「ドラゴンズの歌」を作曲。さらに読売巨人軍創設30周年を記念して「巨人軍の歌」（通称「闘魂こめて」）が作られたのは1963年だった。様々なドラマを残してきたライバル球団の応援歌、ファンが熱い思いで歌い継いできた楽曲はいずれも古関氏が生み出した。そして間違いなくこれからも歌い継がれていく。

新型コロナウイルス対策では、スタジアムでも様々な活動が制限されてきた。その一つが「大声なし」だった。今回の選考会議で一人の委員はこう意見を述べた。「野球にはやはり音楽が必要」。ようやくポストコロナが見えてきた今、既に作曲家としての盛名をはせている古関氏の野球殿堂入りは、災禍を乗り越えつつある私たちへの新たな応援歌となるはずだ。

特別表彰委員会議長 井原 敦

写真提供：古関正裕氏

2023年3月発行

野球殿堂オフィシャルガイド

『野球殿堂2023』

販売価格:3,300円(税込)



殿堂入りの人々を語る(73)

日米野球の架け橋・アイク生原の生涯①

生原伸久（2002年野球殿堂入り 生原昭宏氏弟）



生原昭宏氏

ドジャースのオーナー補佐だったアイク生原が55歳で病没してから30年が過ぎた。私の兄・アイクには3人の恩人がいた。“日本の父” 鈴木惣太郎さん（1968年殿堂入り）と“米国の父” ウォルター・オマリー元ドジャース会長、それにウォルターさんの長男でアイクの上司だったピーター・オマリー会長である。

亜細亜大学野球部監督として初めて亜大を東都大学野球リーグの1部に押し上げたアイクは、指導者としてさらなる高みを目指すため、日米野球評論家で先代オマリー会長の親友だった鈴木さんの紹介でドジャースに自費留学した。

初対面の鈴木さんには門前払いされ、4度目にやっと面会できたが、1965年春、フロリダ州ベロビーチでキャンプ中のオマリー会長は「スズキさんの友達は僕の友達だ」と歓迎してアイクのドジャース生活が始まった。

ドジャースで2年間、世界最高峰の野球を勉強する予定だった研修生の夢は将来、母校・早稲田大学野球部の監督になることだった。それがキャンプ終了後、ピーターさんがGM（ゼネラルマネジャー）を務めていたマイナーリーグ3A のチームに派遣される。身元引受人の鈴木さんがオマリー会長に「アメリカの野球を勉強するには厳しいマイナー生活を体験することだ。何か仕事を与えてほしい」と頼んでくれたからだ。

4時半出勤でつかんだアメリカンドリーム

1年目は用具係。2年目はアイクと同じ年のピーターさんについて、球団フロントの勉強もさせてもらった。そしてシーズンが終わると、ドジャースの副社長に就任したピーターさんとともにロサンゼルスの本拠地・ドジャーススタジアムに転勤。自費留学の研修生は副社長付の正社員になった。

2年間のひたむきな勉強と仕事ぶりがオーナー親子に認められた抜擢だったが、夢の職場は勉強と自主トレーニングの場でもあった。

毎朝4時起床。30分には出勤して山のような郵便物を仕分けして幹部全員に配り、ピーター副社長が出勤する8時すぎまでに新聞全紙を読んで副社長に届ける記事を切り抜いた。

この作業は英語とメジャー情報の勉強に役立ったが、アイクが忘れられなかったのは、ピーターさんから「持つてくるのはドジャースへの批判記事だけでいい」と言われたことだ。

日本では球団や選手の批判記事を書いた記者は出入り禁止になるが、ドジャースでは「ほめ言葉は役に立たない。批判的な記事こそ反省や改善の参考にすべきだ」というわけだ。

そしてアイクは余った時間に無人の外野を走り、選手のトレーニングルームで腹筋運動をして汗を絞った。早朝の新聞チェックと現役選手並みのトレーニングは1982年、オーナー補佐に昇格してからも続いた。

五輪野球を実現したロビー活動

ロサンゼルス・オリンピックを前に、五輪組織委員会のユベロス委員長からピーター・オマリー会長に電話が入ったのは82年の夏だった。「野球をオリンピックの正式種目にしたい」という特命で、組織委と大リーグ、アマチュア野球組織がスクラムを組んだ大仕事が始まった。オマリー会長とアイクは、野球の盛んな日本をロビー活動の突破口にするため何度も来日した。

この間、アイクが格別な協力をいただいたのは、柔道を通じて世界に広い人脈を持つ東海大学の松前重義総長（2022年殿堂入り）だった。総長は即ソ連（当時）当局と連絡を取り、紹介状をいただいたアイクはモスクワに飛んでサージオ・パブロフスポーツ大臣に面会することができた。

オマリー会長とアイクの国際的なロビー活動は実を結び、野球は84年のロス五輪で公開競技となって日本が優勝。1992年のバルセロナ大会から正式種目になった。

（次号へ続く）



こんにちは図書室です



「全国少年野球大会史」

今回ご紹介するのは、大日本少年野球協会が主催していた全国少年野球大会の様子が書かれている『全国少年野球大会史』[横井春野編 昭和6年(1931)年8月4日発行]です。

大日本少年野球協会は、糸井浅次郎氏や横井春野氏らが中心となり大正9(1920)年に関西で結成されました。これにより、全国各地に広まりつつあった少年野球の全国大会開催へとつながりました。

横井春野氏は、雑誌「野球界」の編集主幹で大日本少年野球協会の本部役員を務めるだけでなく、五大学野球連盟(東都大学野球連盟の前身)の設立に尽力するなどその活動は多岐にわたっていました。「野球界」では女子野球の発展についても述べており、少年少女の野球発展のために様々な活動を行っていた人物でした。

この資料は、全国少年野球大会開催までの経緯や、第12回大会の要項、第1回大会から第11回大会までの試合の結果・詳細が書かれています。記念すべき第1回全国少年野球大会について、本文より引用します。

野球界社後援、大日本少年野球協会主催のもとに、大正九年八月二日より三日間鳴尾球場で開催された。優勝チームを派遣せる地方は、東京、横濱、静岡、名古屋、岐阜、大垣、京都、大阪、和歌山、神戸、姫路、岡山、高松、高知の十四地方二十六チームであつた、A組は岡山一中、B組は岡山内山下校が優勝した。

大會は、八月二日、午前八時!大阪市長池上氏の挨拶、第四師団長町田經宇氏の訓辭後、町田氏の始球式のもとに開始された。

その後、第7回大会までは関西の球場で開催されていましたが、第8回以降は東京の球場で開催されています。(右表参照)

『軟式野球史』[全日本軟式野球連盟編 昭和51(1976)年4月10日発行]によると、昭和2(1927)年に東京を拠点とした大日本少年野球協会が新たに設立され、東京主催と関西主催の大会がそれぞれ開催されるようになりました。『全国少年野球大会史』には、東京主催大会のことが書かれています。

2つの大会が開催されるようになったことについて、『軟式野球史』には「二つの全国大会に対して、一方の全国少年野球優勝大会の予選大会に負けても、もう一方の全国少年野球優勝大会に出場できる」仕組みを利用して少年たちは両大会に出場した。」(本文引用)と記載されています。子どもたちにとっては、全国大会出場への機会が増える好機だったのかもしれません。当時、野球少年だった千葉茂氏(1980年殿堂入り)が生前、「この大会に出場することが幼いころの目標だった。」と話していたそうです。

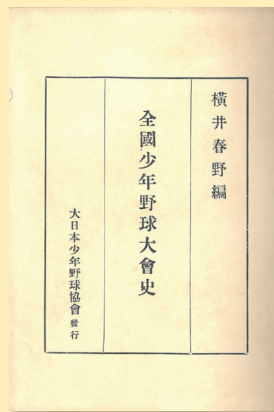
しかし、第12回大会の翌年、昭和7(1932)年に野球統制令がだされ、少年野球の全国大会は開催がかなわず、第13回以後の大会は中止されました。

『全国少年野球大会史』は図書室で閲覧ができます。また、軟式野球や少年野球に関する資料も多数所蔵しております。ぜひお気軽にご利用ください。

司書 永沼 里菜子

■図書室の開室時間

図書室は事前予約制です。2月28日(火)まで臨時休室となっております。詳しくは、<https://bml.opac.jp/opac/top> でご確認ください。



各大会の開催場所
(球場名は資料内の表記と同じ)

第1回	鳴尾球場
第2回	天王寺公園
第3回	天王寺公園
第4回	大阪市立運動場
第5回	宝塚運動協会球場
第6回	宝塚球場
第7回	宝塚協会球場
第8回	明治神宮球場
第9回	明治神宮外苑球場
第10回	明治神宮球場、 早稲田大学野球場
第11回	早大球場

知ってほしいこんな資料(98)

新スポーツ「Baseball5」ボール・ユニホーム

2022年11月にメキシコシティにて、Baseball5初の世界大会「WBSC Baseball5ワールドカップ2022」が行われました。12カ国が参加したこの大会で、日本は準優勝となり、個人表彰も多く贈られました。最優秀女子選手、オールスターチーム、最優秀コーチの3つの賞を六角彩子監督兼選手が、High5アワードというファンを魅了するSNS投稿を行った人に贈られる賞を宮之原健選手が受賞しました。予選のアジアカップを含め初めての国際大会で大活躍をした代表チームのサインボールや色紙、ユニホームは博物館で現在展示中です。

ところで「Baseball5(ベースボールファイブ、略称 B5)」とは、いったいどのようなスポーツなのでしょうか。2017年に世界野球ソフトボール連盟(WBSC)が発表した、アーバンスポーツ(都市型スポーツ)であるこの新スポーツは、キューバの街角で生まれた野球遊び「Cuatro Esquinas/クワトロ・エスキナス(4つのベース・角)」をベースに作られ、アフリカなど設備や道具が不足している地域でも野球というスポーツ、コンセプトを理解してもらうためのコンテンツとしてスタートしました。バットもグラブも必要なく、やわらかいゴムボール1つさえあればゲームができる、気軽なスポーツです。2019年ごろから、日本でも様々なスポーツ施設や学校にて体験イベントが開催され、参加者を楽しませました。

基本的なルールは野球・ソフトボールと同じですが、何点か大きく異なる部分があります。

- ① 必要な用具はゴムボール1つ
- ② 男女混合で試合を行う
- ③ 5イニング制
- ④ 「中間野手(ミッドフィルダー)」というポジションがある
- ⑤ ピッチャーがない
- ⑥ ホームランが発生しない
- ⑦ フィールドがコンパクト化されている
- ⑧ スピード感がある(1試合あたり約20~60分)

これらの違いを眺めると、Baseball5 は、まさに#PLAYEVERYWHERE な新しいスポーツであることがわかるのではないのでしょうか。まだまだ始まったばかりのこのスポーツを、野球殿堂博物館は引き続き調査していきます。

学芸員 太田 若葉

WBSC Baseball5公式サイト(<https://baseball5.wbssc.org/ja.html>) 2023年1月3日閲覧



野球殿堂博物館 トピックス

野球伝来150年記念事業 日本野球聖地・名所150選スタンプラリー 全カ所達成者表彰式

日本野球機構、全日本野球協会と当博物館の3団体が主催した「聖地・名所150選」スタンプラリーの達成者表彰式が1月17日(火)に当館で開催されました。達成者18名のうち来館可能な方が式に参加し、野球日本代表栗山英樹監督からサイン色紙や当博物館年間フリーパスを含む記念品が贈られました。



「野球報道写真展2022」開催

本展は当博物館と東京写真記者協会主催の企画展で、2015年にスタートし、今回8回目の開催となりました。東京写真記者協会加盟各社のカメラマンが撮影した、2022年シーズンの野球界のハイライトを収めたベストショットで、野球の素晴らしさを伝える写真64点を展示し、2022年シーズンの野球界の出来事を振り返りました。

また、会場では「ベストショット オブ ザ イヤー」を決めるファン投票を実施、結果は当館ホームページにて近日発表予定です。

野球殿堂博物館 トピックス

野球の学校 2022「野球伝来150年記念シンポジウム」開催

野球殿堂博物館と日本野球機構では、「野球の学校2022」の第3弾企画として、野球の歴史を振り返り、未来を考える「野球伝来150年記念シンポジウム」を開催しました。本シンポジウムは、4人の講師による講演会と、野球界における各団体の代表者が一堂に会して行われるパネルディスカッションによって構成しました。

■講演会／第1日:12月11日(日)

16:45～17:45 山室寛之 氏(野球史家、元巨人球団代表)【1945年正月、空襲下のプロ野球8連戦】

18:00～19:00 栗山英樹 氏(野球日本代表監督)【野球日本代表監督として挑むWBCの展望と日本野球の未来】

■講演会／第2日:12月21日(水)

17:30～18:30 工藤公康 氏(2016年殿堂入り)【こどもたちの未来と可能性～障害予防のために私たちが考えること～】

18:45～19:45 山田博子 氏(全日本女子野球連盟 会長)【女子野球 競技人口拡大とその将来像】

■パネルディスカッション／12月22日(木)

【野球伝来150年「いままでと未来のカタチ」】

プロ野球、アマチュア野球各団体の代表者によるパネルディスカッションで、各団体がこれまで行ってきた活動の報告と、野球伝来200年に向け「野球の未来のカタチ」を一緒に考える機会としました。

協力:株式会社コナミデジタルエンタテインメント

【パネリスト】

平田 稔 氏／日本野球機構 野球振興室長

長久保 由治 氏／全日本野球協会 常務理事・事務局長

谷田部 和彦 氏／日本野球連盟 専務理事

内藤 雅之 氏／全日本大学野球連盟 常務理事

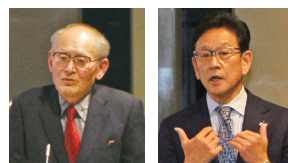
小倉 好正 氏／日本高等学校野球連盟 事務局長

山田 博子 氏／全日本女子野球連盟 会長

小山 吉男 氏／全日本軟式野球連盟 常務理事



パネルディスカッションの様子



山室寛之 氏



栗山英樹 氏



工藤公康 氏



山田博子 氏



パネルディスカッションはYouTubeでライブ配信を実施しました。
動画は左記QRよりご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=oa0IS5aZXlc&t=1572s>

企画展「World Baseball Classic 侍ジャパン、世界一への挑戦」

会期 2023年2月23日(木・祝)～4月23日(日)

当博物館では、3大会ぶりの世界一奪還を目指す侍ジャパンを応援する企画展を開催します。世界一連覇を達成した2006、2009、ベスト4となった2013、2017年の関連資料を多数展示予定です。また、3月9日から始まる1次ラウンド(東京プール)の関連資料も随時展示予定です。

「第7回 野球で自由研究! コンテスト」作品展

会期 2023年3月5日(日)～4月9日(日)

当博物館では2022年夏、小学生を対象に「第7回 野球で自由研究! コンテスト」(主催:公益財団法人 野球殿堂博物館、協力:一般社団法人日本野球機構、株式会社NPBエンタープライズ)を開催しました。

2022年8月1日(月)～11月30日(水)の期間、野球をテーマとした自由研究の作品を募集したところ、193作品の応募がありました。山中正竹氏(2016年殿堂入り、全日本野球協会会長)、田原淳子氏(国士舘大学教授)、平田稔氏(日本野球機構野球振興室長)、庄司正信館長の4名による審査の結果、受賞作品が決定しました。

最優秀賞、優秀賞などの発表、表彰式を3月4日(土)に開催し、翌5日より、受賞作品を中心に子どもたちの力作・大作を展示する「第7回 野球で自由研究! コンテスト」作品展を開催する予定です。

常設展示 ディスプレイ増設改装工事

当博物館では2月の休館期間に、常設展示の各室にディスプレイの増設、更新(65インチ 1台、43インチ 6台、15.6インチ 4台)を行いました。常設展示室でも、殿堂入り顕彰者の紹介映像などがご覧いただけるようになります。

維持会員規則が変わります！

公益財団法人 野球殿堂博物館には、博物館の運営をご支援いただく「維持会員」の制度があります。その維持会員の特典等が4月1日より一部変更となりますので、変更点をお知らせ致します。

- **会員種別** 法人会員／1口：10万円(変更なし)
個人会員／1口：1万円(変更なし)
ジュニア会員／1口：2千円 ※小・中学生限定→小学生限定に変更
- **特典**
 1. 優待証(無料入館パス)は、継続3年以上の個人会員へ贈呈に変更
 2. 法人会員・個人会員の招待券配布数の増加
 3. 貸切見学会へのご招待：年1回、維持会員限定の貸切見学会等を開催
 4. 記念品贈呈：個人会員継続5年毎にオリジナル記念品を贈呈。また、ジュニア会員から個人会員へ継続入会した場合も記念品を贈呈
 5. イベントへのご招待：個人会員へは殿堂通知式(オンライン)へのご招待。ジュニア会員には夏休みイベントの優先枠を設定
 6. ホームページ及びニュースレターへの会員名掲載

博物館からのお知らせ

▶ 第4回理事会 (10月19日開催)

- 議題 1. 「育児休業、看護休業及び育児短時間勤務等に関する規程」及び「介護休業、介護短時間勤務等に関する規程」改正について
2. 「観覧細則」一部改正について
3. 「維持会員規則」一部改正について
4. 会議日程等の承認について
- 報告 1. 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況について
2. 新任特別表彰委員及び
2023年野球殿堂入りスケジュールについて
3. 常設展示エリアのリニューアルについて
4. 職員採用及び再雇用について
5. 冬季臨時休館について

▶ 物販

● 野球守 (黒)

販売価格：850円 (税込)

「野球守」は「ケガをしないよう」、「野球が上手になるよう」、「野球の試合に勝てるよう」等、みなさまの野球を応援するお守りで、袋の中にはグローブの革で作られたお守りが入っています。



2022年12月11日に、野球殿堂博物館の庄司館長から野球日本代表の栗山英樹監督へ、当館オリジナルの野球守を贈呈しました。



※今回野球日本代表に贈呈したのは「野球守 (緑)」になります。

● マグカップ (グレー)

販売価格：1,500円 (税込)

バットとボールをモチーフにした、当館オリジナルの商品です。重ねられるスタッキングタイプになります。

※この商品は、一つ一つ手作業で色を塗布しております。そのため、多少色合いが異なる場合がございます。※グレーの他に水色もございます。



▶ 新理事長紹介

2022年12月5日付にて前理事長・斉藤惇氏が退任し、榊原定征氏 (日本野球機構会長) が理事長に就任致しました。

榊原 定征 (さかきばら さだゆき)
1943年3月22日生 愛知県出身
名古屋大学大学院 工学研究科
(応用化学専攻) 卒業
東レ株式会社 社長・会長
日本経済団体連合会 会長
関西電力 会長 (現在)



▶ 退職

2018年1月より嘱託として勤務しておりました司書・小川晶子が2022年12月31日付にて退職致しました。

▶ 訃報

2005年殿堂入り・村田兆治氏が2022年11月に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
2006年殿堂入り・門田博光氏が2023年1月に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

博物館のご案内	場 所	東京ドーム21ゲート右
	開館時間	〈2/28まで〉 平日 13:00~17:00 (最終入館16:30) 土・日・祝 10:00~17:00 (最終入館16:30) 〈3/1から〉 10:00~17:00 (最終入館16:30) ※東京ドームでプロ野球が開催される日は、 18:00閉館 (最終入館17:30)
	入 館 料	大 人 600円 小・中学生 200円 高・大学生 400円 65歳以上 400円
	休 館 日	月曜日 (祝日、東京ドームでのプロ野球開催日、春・夏休み中は開館)、年末年始 (12月29日~1月1日) ※図書室は、2/13~28の期間、臨時休室致します。
	※休館日及び開館時間は変更する場合がございますので、事前に当博物館ホームページにてご確認ください。	

野球殿堂博物館 Newsletter 第33巻 第1号

2023年2月17日発行

編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-3-61

Tel 03 (3811) 3600 Fax 03 (3811) 5369

http://www.baseball-museum.or.jp/

